

- 分野別模擬授業実施
- 2025年度入試 私立大学展望 他

## 教養ある豊かな人になるために

芸術科 美術 大竹 芙美子

皆さんご存じの通り、東京都は美術館や博物館等の文化資源にあふれた都市です。新宿高校生には大いにそれらを活用し、幅広い分野に興味・関心を傾け、教養ある豊かな人になってほしいと願っています。そのために、教科書やインターネットから得る手のひらサイズの情報だけでなく、実際に足を運び、目でみて身体で感じる事が大切です。

美術館や博物館等について、特に興味のある常設・企画展示が無いと思う場合には、展示自体を目的にするのではなく、建築物に注目してください。私のおすすめは、港区白金台にある東京都庭園美術館です。新宿高校からは電車、徒歩 20 分程度で行くことができます。この美術館は元々、1933年に皇族・朝香宮家の自邸として建てられており、主要な内装デザインには重厚かつ美しい曲線美が目をひくアール・デコ様式で装飾されています。当時、西洋建築の正確な情報や技術を日本の職人が会得することは、非常に困難であったかと思えます。主要な部屋の内装にアンリ・ラパンやルネ・ラリックら、フランスのアール・デコ様式における著名なデザイナーが起用されており、宮廷建築を担っていた宮内省内匠寮の職人の意地と熱意が感じられます。このような空間に身体を包まれる経験は他ではなかなかできません。



また、様々な歴史上の人物が居住していた生活空間であったことも興味深いです。先述した通り、皇族・朝香宮家の邸宅でしたが、その後には外務大臣・首相である吉田茂の総理大臣公邸でもありました。当時の外務省官僚が1ヶ月半総理公邸内（現・東京都庭園美術館）に合宿し、相互の親睦および先輩との交流を図る機会が設けられたり、吉田茂からはフルコースの夕食に招かれ、洋食のマナーを学ぶ機会もあつたりしたそうです。本格的な西洋建築の中で外交官として必要な知識、所作、立ち振る舞いを学ぶことは、より実践的に西洋文化を学ぶことができる場となり、この建築物が果たした役割はとても大きかったようです。

この場所に、高貴な方々や、歴史上の人物が暮らしたり、国の発展と外交について闊達な意見を交わしたりしていたのだなあと思いを巡らせることができ、感慨深く貴重な体験ができます。

学問などの知識はもちろん、芸術や歴史にふれたり、読書や映画を観たりすることで蓄えられる教養は、個人の文化資本の一つとなります。文化資本の格差が問題視されることもありますが、積極的に教養を深めようとする個々人の姿勢を持ち続けることが大切なのではないでしょうか。



## ○分野別模擬授業実施

**2年生**を対象に、10月30日（水）に分野別模擬授業を実施しました。講師の先生の所属と講演タイトルは以下の通りです。

慶応大学経済学部	「経済学とデータサイエンス」
千葉大学法政経学部	「日本人は裁判嫌いか～？データや事例から考えよう～」
早稲田大学国際教養学部	「過去の記録だけでない記憶の不思議」
横浜国立大学都市科学部	「海と陸をつなぐ道～『古事記』から出発して～」
東京学芸大学先端教育人材育成推進機構	「日本の「教師」を教育学的に捉える」
一橋大学ソーシャル・データサイエンス研究科	「データ（サイエンス）を用いた政策評価」
東京科学大学工学院	「人工知能入門」
東京大学農学生命科学研究科	「地球医への道：プラネタリーヘルス（地球の健康）を守るための農学」
電気通信大学情報理工学域 I 類	「画像の中の三角関数」
東京慈恵会医科大学医学部	「運動の適応とは — 学んで体験してみよう —」
東京都立大学健康福祉学部	「日ごろの悩みをみんなで考えよう～問題解決法を用いて～」
東京薬科大学漢方資源応用学教室	「天然物と漢方薬～自然が生み出す多様な化学構造を知る～」
東京大学大学院理学系研究科	「目には見えない激しく熱い宇宙を探る -X線天文学-

2年生は現在、来年度の科目選択の予備調査が終わり、12月に本調査を控えております。大学分野別模擬授業は、進路を考える上で非常に有意義な機会であり、生徒たちはみな真剣に講義を聞き、大きな刺激を受けておりました。3年次の科目選択をするということは、文理選択だけでなく、志望部分や、志望校が決まっているということです。**1年生**は来年の今頃には志望校が決まっていなければならないという事を理解し、進路について考えてください。

## ○2025年度入試の志望動向（私立大学）

私立大学は1月末から始まるいわゆる一般入試も多様化が進み、特に大学入学共通テスト併用型入試、英語外部検定試験利用入試が増加傾向にあります。例えば、早稲田大学の社会科学部、人間科学部の一般入試は、今年度から大学入学共通テスト併用型入試になりました。これからますます共通テスト、英語外部検定試験が重要になります。特に**2年生**は実用英語技能検定などを、この1年のうちに受験するべきです。また、これらの入試方式では1日の受験科目が少なくなるため、今まで推奨しなかった3日連続、4日連続で大学受験をすることもできるようになりました。

難関私立大学(早慶上理)については、ほとんど全ての学部学科で志願者を増やしています。これは、今年度の高校三年生人口が、昨年度よりも増えていることが影響していると考えられます。特に上智大学は共通テスト併用入試などで志願者を増やし、全体では前年比 122%と志願者をかなり増やしているため、注意が必要です。全体の志願者数(前年度比)は、それぞれ慶応大学が 110%、早稲田大学が前年比 107%、東京理科大学が 103%となっています。

昨年度東京理科大学の薬学部が千葉県野田市から葛飾キャンパスへ移転となり、志願者は前年比約 120%以上に増加しボーダー偏差値も上昇しました。今年度も MARCH のいくつかの学部学科でキャンパスの都心回帰があり、それらの学部学科は確実に志願者が増加すると考えられるため、注意が必要です。

※今後の予定（進路関係）

12月16日（月）までに大学入学共通テストの受験票到着

23日（月）24日（火） 共通テストシミュレーション（3年生）

## ○実力テストが終了、期末考査は間もなく

11月6日（水）実力テストがありました（3年生は5日午後もあり）。

**1年生**にとっては、3回目でした（5月スタディサポート、7月実力テスト）。前2回は、中学までの蓄積も試されましたが、今回は高校入学後の学習状況が試されるものになっています。模試の見直しや解き直しはしたでしょうか？英語・数学・国語の主要教科で苦手があると、三年間苦労します。苦手科目、苦手分野が生まれないように、今後の勉強を進めましょう。

**2年生**は、理科や地理歴史公民科目、情報が加わり、放課後遅くまでの受検となりました。理科や地歴公民科目、情報については、初めての模擬試験でしたが、その多くは復習問題だったはずですが、忘れていた内容があれば、反省し復習してください。未習分野に関しては、焦らなくても今後各教科で指導していきます。

**3年生**は、17日（日）にプレ共通テスト（河合塾）があり、全員が受験する最後の実力テストでした。今後、河合塾と駿台・ベネッセの共通テスト模試・記述模試のドッキング判定が返却されます。D・E判定でも決してひるまないでください。先日の進路講演（駿台）の通り、あきらめずに頑張れば、合格の道は、必ず開けます。また、実力テストの結果は、あくまで1ヵ月前の自分の実力です。現役生の実力は、試験当日まで必ず伸びます。まだ、共通テストには約60日、私立大学一般入試にはプラス2週間以上、国公立大学前期試験にはプラス40日以上もあります。12月が踏ん張りどころです。最後まで諦めずにやりきりましょう。

### 先輩からの言葉

## 変わることなく、変わり続ける

アビームコンサルティング株式会社  
執行役員プリンシパル  
小山 元（45回生）

新宿だったら、まわりにいろいろあって面白いのではないか。

そんな理由で新宿高校を選んだことを覚えている。当時、学区制と呼ばれた都立高校入試の仕組みの中で、他の候補はどこも「静かな環境で勉強に集中できる」雰囲気だったのに対して、「新宿南口のすぐ先」にある学校というのは自分にとって何かしら新しい世界を覗き込める場所に思えた。

期待にたがわず、学校の周りは当時の自分にとっては魔界でありワンダーランドだった。大通りを渡るたびに景色が変わり、違う匂いが漂ってくる。街ゆく大人たちの表情や声音は、それまで見たことも聞いたこともないものだった。高校生活の先には無限の、そして多様な世界が広がっていると感じ、本当に強く好奇心が刺激されたのを憶えている。もちろん校内も素晴らしく自由な雰囲気に包まれており（思い出せる校則は「履物は靴とする」くらい）、あっという間に楽しい高校生活を過ごした私だが、振り返ってみるとなにか職業のことを具体的には考えていなかった気がする。世界はまだまだ楽しむべき、探検すべきところであり貢献すべきところとは考えていなかった、という感覚だ。

時は流れていま私は、コンサルタントとして企業の課題を解決したり成長のための戦略を共に考える、という仕事をしている。根本的には企業経営をよりよく、というテーマに関わるのだが、その内容は非常に多岐にわたる。多岐にわたりすぎて仕事のイメージを伝えるのが悩みでもあるので具体例でご紹介すると、たと

えば最近であれば「人口減少時代において鉄道の利用が減少するなかで、鉄道会社は沿線地域を活性化し社会に貢献していくために、どのような価値を提供していくべきか」「バブル世代の大量退職にそなえて、勤と経験に支えられてきた熟練技術者のノウハウをどのように継承していけるのか」「成長著しいアジアの市場における事業を強化したいが日本流のやり方・売り方をどこまで生かせるのか・個性として残すべきはこういった部分か」といったテーマが多い。いずれも「変化する社会に順応し、よりよく企業活動を推進させ社会に貢献する」ことを望む企業を社外から支援するというものだ（逆に言うとも「今のままでよい・変化する必要はない」という企業からの相談は無い）。

また、テーマに対するコンサルタントの関わり方もプロジェクトによって千差万別であると共に「コンサルティング企業にしか出来ないことはあまりない」という特徴もある。市場調査や統計情報からの予測などをもとに将来像を構想・言語化するといったものであったり（調査会社・シンクタンクとも重なる）、その事業を推進していくための業務の流れやそこで用いる IT システムを構築したり（IT 企業とも重なる）、ターゲット層に対するより魅力的な伝え方を考えたり（広告代理店やマーケティング企業とも重なる）しているので、「これがコンサルタントの仕事です」と境界線を引きにくいのである。敢えて言えば「変化したいという企業の望みを実現する」という目的にむかって何にでも姿を変える、ということかと考えている（コンサルティング業界といっても規模や得意分野によって業務範囲は様々だが、私が関わってきたこの四半世紀を通じて全く変化していない会社は知らない）。社会が変化するスピードに負けないように企業が自分の力だけで変化することはそれだけ難しいとも言えるだろう。

したがって個人にも常に自分をアップデートすることが求められる。特にこの 20 年間でテクノロジーを使いこなせるか、多様な価値観を尊重し組み合わせた議論を進められるか、といった要素の重要性が大変高まっているが、それに限らず社会の変化を個人として察知し学び続ける姿勢が重要だ（新しいプロジェクトに入るときは先ず何冊か本やサイトの論考を読破して知識を補完するなど）。

…と、こう書くとツライ仕事に見えてしまうかもしれないが、一方でプロジェクトが成功した時の達成感は格別である。大変だったがゴールにたどり着いた、しかも社会の役に立てた、こう思える瞬間が最高だ。高校生活に例えていえば文化祭の高揚に近い気がする。自分が何者かというより、自分が達成したことへの満足だ。

この、ある意味「何者でもない」状態で社会に参画する仕事に大事なことは、「変わり続ける力」だと私は考えている。勿論みなさん全員にコンサルタントという仕事を進めるわけではないが、知っておいてもらいたいのは「なにかひとつに定める」ことが出来なくても、「変わり続ける」ことにも価値はあるということである。私自身転職を経験しているし仕事に悩むことは今でも多いが、コンサルタントというある意味曖昧で流動的な仕事が存在し得るということは、みなさんが関わっていく社会にも余白や曖昧さや不確かさが多いということの証明でもあると思っている。実際私が新宿高校を卒業してからの 30 年、日本も世界もガラッと変化している。もちろん理想とする自分の姿、キャリアがあるのは素晴らしいことだが、そうでなくても焦ることはないし将来が見えないと感じても心配することはない。今日の失敗が明日の成功に繋がっていることも多いのだ（そしてそれは成功した後でないと気づけないのだ）。

「ひとりひとりに最適化された答えを AI が出してくれる」といった言葉が毎日のように飛び交う昨今だからこそ、敢えて伝えたい。仕事もキャリアも人生も、すべては自分が主役なのだ。AI に何と言われようと気にせず、変化し続ける社会の中で自分も変化し続ければよいのだ。悩んだら新宿の街を歩けば、いろんな顔をした大人に会えるだろう。計画通りでもそうでなくても、みなさんが楽しい人生を送っていただくことを願っている。